

5月沖縄現地へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年5月4日
No.190

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

5・1メーデー集会&デモに450人!

●沖大2年生の4・25法大集会感想

多くの法大生の結集で大成功した4・25法大解放集会に沖縄からも参加しました。

私は毎年の集会の激しさや法大当局の外濠校舍門封鎖予告を知っていたので、大激突になると思い「逮捕でもなんでも来い」という覚悟で集会に臨みました。

しかし、いざ集会が始まってみると、文化連盟のもとに多くの法大生が集まり、追いつめられた法大当局と公安警察は門の封鎖も、逮捕もできませんでした。

絶対反対で闘ってきた文化連盟と多くの法大生の怒りの行動によって、「門の封鎖による文化連盟と法大生の合流の阻止」という法大当局の思惑は粉碎されたのです。

学生の団結した闘いが大学当局や国家権力のいかなる弾圧もうち破ることができるし、多くの学生がそういった闘いを求めていることを集会に参加して実感しました。

学生の闘いによって打ち破ったとはいえ、今回の法大当局の門の封鎖という策動は許しがたいものです。表向きはリベラルなイメージを持たれている田中優子総長体制のもとで学生弾圧が行われるのは許せないし、田中優子学長体制のもとで法大の腐敗が加速しているように思います。

私の通う沖縄大学でも、「辺野古新基地建設反対」を掲げる仲地博学長のもとで激しい学生運動潰しが行われています。

私も所属する沖大学生自治会復活会が、基地建設や改憲・戦争に反対する講演会を学内で行おうとしたところ、沖大当局が教室の貸し出しを拒否するということが起きました。

沖大当局は「学生の施設使用には教職員の名前が必要」という沖大のどの規則にも書かない「決まり」で復活会の教室使用を拒否したのです。沖大当局は手続き上の問題のように言っていますが、どう見ても企画潰しとしか言いようがありません! 本当に許せない。

沖大当局は他にも学生規則を密かに改悪し一切のビラ撒きを禁止してきたり、1年生のオリエンテーションにて「(学内での署名やビラ撒きには)対応しないように」と呼びかけています。

4月25日に行われた日米首脳会談でさらに辺野古の基地建設が進むと言われています。この情勢の中で沖大生が立ち上がるのは当然じゃないですか! しかし、そういった学生の主体的な決起を憲法や大学としての民主主義的な体裁すらかなぐり捨て潰しにくるのが今の沖大です。



4・25法大門前で団結ガンバロー!



5・1JR本社に向かってデモ!

10年前の基地建設を止めてきたのは紛れもなく労働者・学生の実力闘争です。基地建設阻止の闘いを「県外移設」＝「権力者への請願・取り引き」に貶めている仲地博学長は沖大生の力強い決起を憎悪し、学生の決起を潰しにきています。

沖大の仲地博学長体制は法大の田中優子総長体制と同じく安倍政権を左から支えるものでしかありません。

沖大当局の復活会へのネガティブキャンペーンは激しいですが、先日の4・25集会のような闘う核となる学生がいれば、どんな分断も打ち破れると確信しています。そして5月沖縄闘争に全国の学生が結集し、沖大生と合流することができれば、沖大の支配を打ち崩し基地建設を止める闘いができます。

私もキャンパスから5月沖縄闘争への大結集をつくり出し、沖大自治会を再建するために闘う決意です。

沖縄現地で待っています。

●京大生Aの4・25法大集会感想

4月25日、私は法政大学前での4.25デモに参加しました。平日の、しかも進級に一番重要な授業がある金曜日に行なわれるということで私は当初参加を渋っていました。この4月からは心を入れ替え、ちゃんと全ての授業に出席しようと決意していたからです。しかし、私はたった3週間たらずで丸1日学校を休み、昼間から東京の街中を練り歩くことになります。何がいったい私をこうさせたのでしょうか。きっかけは熊野寮に入寮したことから始まりました。入寮直後、寮の食堂で行なわれた、同学会中央執行委員会などの主催する福島診療所の先生の講演会に参加したとき、同じく参加していた武田雄飛丸さんの挨拶を聞くことになります。その場で私は彼の言葉に心を打たれます。なんてはっきりと自分の意見が述べられる人なのだろう、と。彼の話はとても筋が通っていて、何の前知識もない私にとっても理解のしやすいものでした。入寮以前から、どうやら京都では抗議活動が盛んに行われているらしいと聞いていた私は、いまだきそんな人がまだいるのだろうかという疑問に思いました。

学校の中でビラを配っている人や立て看板に難しい言葉でよく分からない文章を書き連ねている人は、危険な思想の持ち主で異端な存在なのだと勝手に思い込んでおりましたので、これまでの人生であまりそのような人と関わることはありませんでした。しかし、いつからか色々な

人の話を聞いてみようと思うようになりました。話を聞いてみるまでは、その人が本当に何を考えているのかは分からないと思うようになったからです。大学院進学のため4月の初めに京都に来た私は出会いの季節ということもあり様々な人と出会いました。その中で一番面白い話を私にしてくれたのは活動家の人でした。

彼らは皆自分の意見を持っており、またその意見を裏付ける膨大な知識を持っていました。この人たちは自分たちの未来がどうなるのかを考え抜いているのです。誰よりも純粋に日本の未来を心配している人達なのだと私は感じました。社会に対する意見も無く、政治に興味のない近頃の学生の典型であった私には大変な衝撃でした。私は、選挙で選ばれた人間や政治学の専門家が日本の政治を動かしているのですから、自分には関係なく自分の出る幕はないと考えていたのです。しかし、4.25デモに参加し、それは違ふと知りました。また、同時に以前の自分の興味の無さはある程度情報操作によりコントロールされていたものなのかも知れないと気づき、無関心の恐ろしさを知りました。

今思えば何も考えていなかった以前の自分は死んでいたようなものです。自分で考えることの重要性を知った今、初めてこの世に生を受けたのだと思いました。活動家の人の話が正しいことかどうかは私には分かりません。しかし、少なくとも彼らの話には筋がしっかりと通っていると私は感じました。それが、私が今回4.25デモに参加した理由です。そこには今まで自分が想像もしなかった光景がありました。いかに自分が今まで社会に無関心だったかに気付くと同時に、日本の真実に少し触れた気がしました。それは知ってはいけない真実の様で、少し恐ろしいとも感じられます。しかし、自分の置かれた状況について何も知らず、知ろうと思いつくことも無いように操作された人生をずっと生き続ける恐ろしさに比べれば、何という事はありません。

4.25デモは法政大学当局への抗議活動ということでしたが、大学や政府だけでなく参加する人をも変える可能性を秘めていたと私は感じます。現地では私と同じく始めてデモ活動に参加する人がいたと思います。それらの人々もきっと今、日本の未来について思いをめぐらせていることでしょう。

●京大生Bの4・25法大集会感想

さる4月25日の法政大学での集会は、体制側の正体を知る上でも、団結の重要性を知る上でも有意義なものとなった。私は法大でのデモに参加するのは、初めてで、そもそも学内で今の法政大学闘争について知り、他大学で起きていることが実は全国規模でなされている大学の管理強化のための一つの段階であるということを認識したためである。集会とデモに参加して以下のことを感じた。まず、集会前に法大のキャンパスに入ったが、そこは高い建物の中で、奥行きが狭く、学生同士がたむろして交流できるスペースが見いだしにくく、職員らしき人物の徘徊も散見され、学生を監視しようという大学当局のかねてからの周到な準備と意思をそこに見出だした。集会に際しては、まず第一印象として、近くの公園やら大学の門の辺りに多数の警察官がおり、何の重大事件かと思わせた。単なる不当な学生への見せしめ的な処分への撤回要求に対して、警察権力に頼る大学当局の異常とも言える姿には憤りも覚えたが、一方では、学生が団結したときの力にやつらが恐れおののいている証拠であり、この異様なもののしさが、既に法大当局の小心さやがて敗北する彼らの運命を暗示してるかのようであると感ぜられた。デモの最中は、蠅のようにたかる制服を着た警官や遠くからこちらを監視する公安ども

が目障りではあるが、それほど強硬には出てこれないように思えた。やはり、暴処法無罪が効いたのかも知れぬ。文科省への大学改革中止の申し入れまで終えた後の私の全身の充実は言語化できぬものである。口で社会の不正を語るのみならず、肉体を伴う行動参加、アンガージュマンが人に生への実感を与えることを、そして共にこの日法大闘争に馳せ参じたつわものどもとの連帯感を今振り返りながら味わう私は確かに存在する。

●首都圏学生の4・25法大集会感想

法政大学のみなさん！こんにちは！先週、この法政大学で行われた4月25日の学生デモに参加して来ました！

今回の文化連盟のデモは1つ法政大学の行った文化連盟、全学連の闘う学生への処分を撤回させるため2つ学内の学生への規制の撤回を求めていくものでした。

この要求を掲げたデモに対して法政大学はキャンパスを一部封鎖と大量の警察と職員にデモ参加学生を監視させると言う事を行いました。そんな厳戒体制で行われたデモでしたが率直に言って楽しかったです。大学で学生が一問題を議論し行動する。当たり前のように大学教授、特に法政の教授さんは言っていますがこの日、目の当たりにした現実、自由な言論を叫んだ学者でなく学生にこそ大学であり、社会を担う資格があると言う事です。少なくとも当日見た学生を盗撮する職員や警察ではないと思います。この法政大学から、またこの日出会ったあらゆる大学生が通うキャンパスからこんな腐った大人を追い出す運動を僕らで始めて行こう。そう思いました。

●東北大学生自治会委員長・青野弘明

法大を先頭とした首都圏の新入生の感動的な決起を引き出し、4・25法大解放総決起集会は大成功しました！ひとえに不法不当な「無期停学処分」に対する武田君の不撓不屈な闘いが多くの新入生の心をつかんだからだと思います。

文化連盟の目を見張る前進に腰を抜かした田中優子は、「リベラル」の最後の皮さえ脱ぎ捨て、キャンパス内への警察権力の導入と申し入れ書の受け取り拒否という本当に許し難い暴挙に打って出てきました。しかし、この事態を多くの法大生が規制を突き破って注目し、文化連盟の正義性と法大当局の恥ずべき醜態を満天下に明らかにしたと思います。田中優子のようなエセリベラルこそ、左から安倍政権を支えて、戦争と総非正規職を労働者・学生に強制する唾棄すべき存在です。安倍－田中体制を串刺しにして、武田君をキャンパスに取り戻す展望を、今回の法大闘争で現実性をもって切り開いたと思います。

そして京大・広島大に続き「革命の火薬庫」沖縄の地で学生自治会再建をかけた闘いが始まっています。ついにこの地平にまで私たち全学連は迫りつきました。全国学生が法大闘争を真剣に取り組み、次々と学生を獲得してきたからこそその成果です。私自身にとっても法大闘争は大きな成長の糧になりました。

学生は戦争と大失業の危機に直面していますが、こういった情勢だからこそ闘えば勝てることをこの間、私たちは証明してきています。法大で、沖縄大で、学生運動をもっともっと前進させて新自由主義大学をぶっ飛ばしていこう！

【当面する行動方針】



●5・17～19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止！「改憲・戦争」の安倍政権打倒！ 学生自治会を甦らせよう！

●6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※30分前までに裁判所脇に集まって下さい